

科目名	近代日本社会変動論特講	担当者	コミネ 小峰 カズオ 和夫	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	現代経済の最大の牽引車は株式会社である。本講義では、日本の株式会社の現状と将来について、株式会社に関する原理的・歴史的理解に基づき科学的に考察し、これからのポスト産業資本主義時代における株式会社のあり方を的確に予測する知見を養い、21世紀を主体的創造的に生きていくための実践的な教養と深い洞察力を身に着けることをめざす。		
到達目標	急速に変化しつつある株式会社について、しっかりした社会科学的見地から考察し、株式会社をめぐる現実を冷静に認識することにより、その現状と将来を的確に論ずることのできる知見をたくわえ、つねに自己の立ち位置を明確にしながら主体的に生きていく素養をやしなう。 指定の教材、参考書等の学習により、日本の会社の現状や将来の在り方を考えるための社会科学的思考を身に着け、読書力、情報収集・分析能力を高め、さらにはレポート作成を通じて論理的思考力、構想力、文章表現力等を向上させる。		
学修方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 学習に関わる質問があれば積極的に担当教員に尋ねるようにする。 ② 教材をしっかり読んで、他人の意見を理解する能力を高めつつ、意欲的に新たな知見を獲得するよう努力する。 ③ レポートの課題の主旨を正確に理解し、見当外れのレポートにならないよう心掛ける。 ④ レポートが読書感想文的な主観的論述のみで終わらないよう気をつける。 ⑤ 上記④を確かなものにする一つの方法として、教材以外の文献にも目を通すようにする。 ⑥ レポート執筆にあたっては、形式（章立てなど）や構成を整えて話の流れや論旨を明確にし、同時に文章や字句等に誤りが無いよう注意を払う。 ⑦ 提出した草稿に対する教員からの添削結果をよく読み、それに積極的に対応することによって、学習内容を一層充実させ、より良いレポートに仕上げていくようにする。 		
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者確定後に担当教員から出される学習上の注意点等の指示をよく理解する。 ② 草稿の提出：前期は7月末までに、後期は11月末までに、それぞれ最低1回は草稿を提出し、教員からの添削を受けるようにする。 ③ 草稿の手直し：前期は8月末、後期は12月末までを目途に、添削結果に対応した改善を草稿に加える。 ④ 前期後期それぞれ所定の期限までに正式の原稿を提出する。 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	教材の理解度、レポートの構成、文章力と語彙力、参考文献等の利用具合、全体の論旨の明快度等をみる。
	平常評価	30%	草稿の提出状況、添削結果への対応状況、担当講師とのコミュニケーション等を通じての履修態度、熱心度をみる。
履修者への要望	学習は自分を磨くためにおこなうものと心得、骨身を惜しむことなく真摯に取り組むようにしてほしい。とくに指定の教材に関しては、これをきちんと読み込み、課題に適切に対応したりレポートを作成するよう努力してほしい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 海老原嗣生 教材名： 『いっしょうけんめい「働かない」社会をつくる』（PHP 研究所，2014 年） ISBN:978-4-569-82104-7 820 円+税</p> <p>近年「ホワイトカラーエグゼンプション」導入の是非が議論を呼んでいる。本書は、誤解されているところも多い「エグゼンプション」を、日本の会社員の働きすぎ構造を変える契機ととらえることもできるとし、これを機に日本の雇用人事システムの根本的改善の可能性のあることを論じたものである。欧米企業との比較の中で、日本企業の旧来の雇用人事システムのメリット・デメリットを丁寧に考察している。以下がその内容である。</p> <p>○経営側が隠しているエグゼンプション導入の本音 ○なぜエグゼンプションは必要 になったのか？ ○なぜ欧米人は、しっかりと「働かない」のか ○労働者都合でのエグゼンプション設計 ○どこまで日本型を変えるべきか ○法律でできることと、企業が考えること ○みんなで歌う、日本型雇用へのレクイエム</p>
参考図書	<p>常見陽平『なぜ、残業はなくなるのか』（祥伝社，2017 年）ISBN:978-4-396-11500-5 800 円+税 小倉一哉『過働社会ニッポン』（日本経済出版社，2011 年）ISBN:978-4-532-19594-6 800 円+税 筒井淳也『仕事と家族』（中央公論新社，2015 年）ISBN:978-4-12-102322-3 780 円+税</p>
履修上のポイント	<p>(1) まずは教材をきちんと読んでほしい。 (2) テーマの性格からすると、自分自身の体験などに照らし合わせながら、教材の中で出会う様々な事実や意見をよく吟味してほしい。 (3) 教材だけを読んでレポートを書くのではなく、たとえば上記の参考図書に挙げられているような本にも目を通して、色々な角度から問題を考えるようにしてほしい。</p>
レポート課題 1	<p>日本と欧米の企業の雇用人事システムの違いを、教材をもとに説明しなさい。それについて感じたことやコメントしたいことがあれば自由に述べなさい。 留意点： 自己の体験を生かすことが大切であると同時に、いままでの自分の考えを再検証する機会であるとの意識を持ってレポートするのが望ましい。</p>
レポート課題 2	<p>日本の企業に「エグゼンプション」が導入されたとすると、どんな変化が企業や社会に起こると予想されるか。教材を参考にしながら自由に論じなさい。 留意点： 当該問題に対する自分なりの意見をまとめるつもりで書くのが望ましい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 岩井克人 教材名： 『会社はこれからどうなるのか』（平凡社，2009 年） ISBN:978-4-582-76677-6 950 円+税</p> <p>いま資本主義経済は 18 世紀以来の産業資本主義の時代からポスト産業資本主義の時代に移行しつつある。この歴史的な大転換は「グローバル化」「IT 革命」「金融革命」の三つの波によって押し進められている。当然のこと資本主義経済の主役である会社も、これに対応して大きく変化せざるをえない。しかし日本の会社はこれにうまく対応できず混迷を深めている。本書では「株式会社」について原理的な再検証を行い、ポスト産業資本主義時代の会社のあり方を展望する。教材の目次は以下のとおりである。</p> <p>第一章 なぜいま、日本の会社はリストラするのか 第二章 会社という不思議な存在 第三章 会社の仕組み 第四章 法人論争と日本型資本主義 第五章 日本型資本主義とサラリーマン 第六章 日本型資本主義の起源 第七章 資本主義とは何か 第八章 デ・ファクト・スタンダードとコア・コンピタンス 第九章 ポスト産業資本主義における会社のあり方 第十章 会社で働くこと</p>
参考図書	<p>平川克美『株式会社という病』（文藝春秋，2011 年）ISBN:978-4-16-780155-7 648 円+税 伊藤誠『日本経済はなぜ衰退したのか』（2013 年）ISBN:978-4-582-85678-1 780 円+税 伊藤修『日本の経済』（中央公論新社，2007 年）ISBN:978-4-12-101896-0 900 円+税</p>
履修上のポイント	<p>(1) 教材は、株式会社と資本主義の変化を原理論的・歴史学的にとらえ、21 世紀におけるそれらの在り方を展望している。ぜひその見解の全容を理解してほしい。 (2) 自己の体験や見聞を生かしたりレポートにするのが望ましい。 (3) 参考図書など教材以外の情報にも当たり学習内容の充実を図ってほしい。</p>
レポート課題 1	<p>下記二問から一つ選びレポートしなさい。 ①株式会社における「経営者の倫理」についての教材の見解をまとめ、それについて論評しなさい。 ②日本では会社の従業員のことを「会社員」と呼ぶのが普通である。このことについての教材の見解をまとめ、それについて論評しなさい。 留意点： 著者の見解をよく理解しきちんとした論評を書くようにしてほしい。</p>
レポート課題 2	<p>下記二問から一つ選びレポートしなさい。 ①教材ではポスト産業資本主義の時代における「おカネと株主の重要性」についてどう予測しているか。著者の考えをまとめ、それについて論評しなさい。 ②教材ではポスト産業資本主義時代における「会社と従業員のあり方」についてどう予測しているか。著者の考えをまとめ、それについて論評しなさい。 留意点： 著者の見解をよく理解しきちんとした論評を書くようにしてほしい。</p>